

持続可能なまちづくりへ行動

鯖江の企業・団体宣言

国連大使が市の活動評価



SDGsを達成する上で女性の重要性などを訴えるアンワル・K・チャウドリー国連大使

国連が採択した持続可能な開発目標(SDGs)を推進する鯖江市は七日、「さばえSDGs推進シナジウム」を市郷陽会館で開いた。三十五の企業・団

体が持続可能なまちづくりに向けて行動することを宣言した。出席したアンワル・K・チャウドリー国連大使(左)はバンングラデシ出身



SDGsの理念の下、持続可能なまちづくりのために行動することを宣言する参加者たち=いずれも鯖江市郷陽会館で

は国連における女性の権利確立の先駆者。冒頭のスピーチで、鯖江市がSDGsの中で軸とする「ジェンダー平等の実現」の推進活動に触れ、「地方都市でもモデルケースになることを実証している。全面的にサポートしたい」と評価した。県内四企業と仁愛大の代表者がSDGs達成に向けたそれぞれの取り組みを紹介し、牧野百男市長や大使が意見交換した。同市が女性活躍を重視する理由について、牧野市長は、SDG

人権広報大使に「ゆめまる」委嘱 福井で啓発や表彰

人権週間(四〜十日)に合わせて、福井市や福井人権擁護委員協議会福井市部会などは七日、同市のアオッサとJR福井駅周辺で啓発活動を行った。



中村和博局長(左)から表彰状を受け取る熊川椋太さん=福井市のアオッサで

アオッサでは「人KENハートフルフェスタ」と題して式典を開催。福井地方務務局の中村和博局長が、市宣伝隊長の「朝倉ゆめまる」を入権広報大使に委嘱し、一年間の啓発活動への協力を要請した。

市内の計二十人が表彰され、作文で優秀賞を受けた熊川椋太さん(北陸中一年)らに中村局長と部会の茂呂信吾会長から表彰状が手渡された。熊川さんは、知的障害がある二歳上の姉の姿から、優れた部分もある障害者の可能性を知ることの大切さを訴えた作文を

朗読した。式典後、同部会のメンバーが福井駅周辺へ繰り出し、人権相談を呼び掛けるパンフレットなどを通行人に配った。駅西口のハピリンでは八日まで、人権作文とポスターの入賞作品が展示されている。

(山本真喜夫)

sの相乗効果と好循環のためには、女性の役割が重要。市が推進する「女性活躍」は女性が活躍できる環境を整備することと説明し、男性の理解も求めている。チャウドリー国連大使は女性の自己肯定感の低さを指摘。男性がつくった文化

や伝統が女性の不平等を生んできたとし「男性の意識が変わらなければ、改善されることはない」と訴えた。シナジウムには稲田朋美衆議院議員をはじめ市民ら約四百人が参加。終盤で「さばえSDGs宣言」を全員で唱和した。(玉田能成)

連続で成功し116キで3位につけると、シャークも一回目の135キを挙げて波に乗り、二本とも成功。記録を143キに伸ばしてトータルで準優勝した。県勢はこのほか、四人が出場した女子49キ級で坂井高出身の渡辺真生(東京国